



〈特集〉今年来年の夏セーリング江の島、学園卒業生の気になるお店、インドネシアで起業梅村正毅氏、SDGs山下耕平氏

## 東京2020オリンピック・セーリング競技が藤沢・江の島ヨットハーバーに56年ぶり再来！

日の丸セーラーズの近年の活躍は目覚ましく世界選手権で470級<sup>注1</sup>で吉田・吉岡組（女子）が世界チャンピオンに、磯崎・高柳組（男子）も準優勝とダブルの金銀メダル獲得した、またアジア大会では49er級<sup>注2</sup>・レーザーラジアル級<sup>注3</sup>・470級は男女ともに4種目で金メダルを獲得しました。

「東京オリンピックの前哨戦として今年の8月江の島ヨットハーバーで行われるセーリングワールドカップシリーズは最大規模・最高レベルのヨットレースになる」と日本セーリング連盟の会長は豪語する。オリンピックの前年この夏、江の島ヨットハーバーに世界のトップクラスが集結する、何か江の島が凄いことになりそうだ。

特に注目は、セーリング競技種目の中で最も高速、海のF1と言われる49er級で急成長中の2人、江の島ヨットハーバーを拠点に練習している。クルー<sup>注4</sup>役の八山選手は藤沢市片瀬在住、スキッパー<sup>注4</sup>役の古谷選手はもと我が湘南学園中学の卒業生、2人は九州で名門の福岡第一高校セーリングチームで出会う。昨年8月にジャカルタで開催されたアジア大会49er級で見事優勝し今後の活躍が期待されます。



ふるや しんげん  
古谷 信玄選手（左）  
1989年生まれ  
湘南学園出身 早稲田大卒  
役割はスキッパー  
(株) エス・ピー・ネットワーク所属

はちやま しんじ  
八山 慎司選手（右）  
1987年生まれ  
藤沢市片瀬在住 福岡大卒  
役割はクルー  
(株) エス・ピー・ネットワーク所属

東京2020オリンピックへ意気込みを古谷選手に伺いました。

伸び率の話で言うと、2018年8月から大会（世界選手権・アジア大会・ワールドカップ・オリンピックウィーク）が続いていますが、どんどん成績が上がっていて良い手応えを感じています。特に江の島の2大会だけでもワールドカップよりオリンピックウィーク大会の方が圧倒的に好成績だったのです。それはまさに慣れだと思えます、僕らが課題にしている相手がいる中でどうやって戦うかが身につけてきているのです、わくわくするような普段できない練習を実際に実践で積んでいくのでそこは僕らの強みと言えます。大好きな江の島の海で日の丸を揚げられるようにメダルをしっかりとれるように頑張ります。

藤沢市東京オリンピック・パラリンピック開催準備室のインタビュー引用

セーリングを愛し、チームワーク抜群、藤沢と江の島と湘南学園に、ゆかりのある二人を応援しましょう！



注1 470(ヨ>NNナナル)級…全長4.7メートル、舵と主帆を操るスキッパー、前帆を操るクルーの2人乗り（男女種目）  
注2 49er(フォーティナイナー)級…全長4.99メートル、幅2.90メートル、二人乗りでスピードが速く海のF1と呼ばれる  
注3 レーザー級(男子)…全長4.23幅1.37、世界で広く普及している1人乗り種目、女子がレーザーラジアル級(セール20%小)  
注4 スキッパー(skipper)…セーリング競技で舵(かじ)を握る者、スキッパーではない乗組員のことクルーという。

# 2018セーリング・ワールドカップ・シリーズ江の島大会 ウェルカムフェスティバル開催！江の島で「おもてなし」

2020東京オリンピックの会場となる江の島ヨットハーバーで前哨戦として2018年8月ワールドカップセーリングが開催された。セーリング競技としては最大規模で最高レベルのワールドカップレースだ。選手は約50カ国から600人のトップ選手・スタッフが参加し世界一を目指す。開幕前に彼らを心から「おもてなし」をするには何をすればいいかを考え、「藤沢と日本の伝統文化」で出迎えようと決め実行した。

ゆあさ ひろかず  
湯浅 裕一さん  
小中高 第17回生 法政大卒  
紀の国屋本店 代表  
藤沢市江の島2-1-11  
江の島振興連絡協議会 会長



女夫饅頭

カナダ、ウィンザー市長と

創業寛政元年（1789年）、お土産の定番「女夫饅頭」<sup>めおとまんじゅう</sup>で知られる紀の国屋本店の9代目店主。「生まれた時から江の島で生きる運命」という根っからの島民だ。大学を卒業してから、10年ほど、旅行会社で営業（学園の修学旅行もアシストしたやり手）や添乗員として勤務していた。「仕事が楽しくて後ろ髪を引かれる思い」で、40歳を過ぎてから菓子職人の修業を始め店を継いだ。

江の島に3つある町内会で組織される江の島振興連絡協議会の会長を務め8年、主に島の自治や観光振興などが役割だが、オリンピックに向けては市の観光協会や商工会議所と共に「おもてなし」を図る役目を自分の育った『大好きな江の島のために私たちが盛り上げよう』と自ら実行委員長に手を挙げた。



旅行会社時代 フィリピンセブ島

## 「藤沢と日本の伝統文化でおもてなし」

### 木遣り・纏振り【藤沢とび職組合連合会】



木遣りは、民謡の一種で独特の調子と節をつけた労働歌です。纏振りは、江戸時代に町火消の各組が用いた旗印の一種である纏を振り立てて消火活動の目印とするとともに、仲間たちの士気を鼓舞したとされます。

### 和太鼓【太鼓集団ふじ】



世界的な太鼓ドラマー“ヒダノ修一”氏のプロデュースにより誕生した藤沢市の新たな観光コンテンツ「太鼓集団 ふじ」です。藤沢市観光協会が運営しています。

### 神輿海上渡御【片瀬諏訪睦（藤沢・鎌倉神輿連合）】



神輿とは、普段神社にいる神霊が祭礼の際に一時的に鎮まるとされる輿です。海上渡御には、巡幸の際のみそぎの意味もあります。

このほかに、

江ノ島ヨット音頭

県指定無形民俗文化財 江の島囃子  
の だて  
野点 など

8/17からプレオリンピックテストイベント・8/25からセーリングワールドカップと世界大会が決まっているそうです。それに合わせ今年も「ウエルカム・イベント8/25」に実施することもお聞きしました、今年はどうな「おもてなし」になるのか本当に楽しみです。

2019/2020の夏は藤沢・江の島が本当に凄いことになりそうです、見に行きたくなりますね。

## 第1回

## 学園卒業生の気になるお店

## カクテル・ベルーガ

柳町 卓さん (小中高32回生)

鶴沼石上1-7-1 ケインズタワー B1A ☎24-4257

18時から午前3時 火曜定休

## 「こだわりのウイスキーと厳選した素材を使ったおつまみ」

鴨の生ハム、チリビーンズ、たっぷり野菜のヘルシーメニューなどどれも美味しく自家製ピッツァは最高。ジャズライブやパーティーなど様々なイベントでお客様のおもてなしも素晴らしい。お客様は学園の先生や卒業生なども多数お見えになるそうで、女性一人でカウンターに気軽に立ち寄れる地元で根差した落ち着いた雰囲気のあるカクテルバーです。学園の方でしたら柳町さんにお声を掛けてください。



## 片瀬藤田デンタルクリニック

藤田 佑三さん (幼小中高48回生)

藤沢市片瀬4-10-17

☎22-4880

## 「生まれ育った地元の歯科医院で先端の歯科医療を」

1957年祖父が開業、以来60年近く長きにわたり地元のかかりつけ医として多くの信頼を集めてきた由緒ある歯科クリニックです。現在3代目の藤田佑三院長が得意とする歯周病や口腔外科の専門医として治療やアドバイス等は患者さんの間でも評判で大人気です。また診療時間は月火木曜が22時まで土日も診療している、また江ノ電の湘南海岸公園駅から徒歩10秒でパーキングもある、車椅子やベビーカーでも安心のスロープ設置、お子様連れのためのキッズスペースもあり全てが患者さんが安心して受診をすることが出来るクリニックだ。

## 蕎麦・酒 二八

坂部 広征さん (高50回生)

藤沢市南藤沢23-10 六光会館ビル4階 ☎26-0202

営業、日曜12~22時、火曜~土曜12~0時、月曜休

## 「こだわりの出汁に素朴なもり蕎麦」

江戸時代から続く「蕎麦酒屋」をコンセプトにお店作りをしました。落ち着ける空間で二八蕎麦とお酒を楽しんで頂ければと思います。1人でカウンターで、二人で向い合って、3~4人で楽しくと様々な用途でお越しいただけます。蕎麦屋らしからぬ立地ではございますがお気軽にお越しください。お店のおすすめは季節の食材を使ったさくさくの天ぷらと素朴な蕎麦、昼飲みも当店おすすめで店内ジャズを聴きながら如何でしょう。



## エミプラス

田口ちさとさん (小中高40回生)

藤沢市南藤沢17-1 アプリオリ湘南501 ☎41-9221

10時~19時不定休 女性専門完全予約制

## 「口コミで広まりオープン1年で予約が取りにくいサロンに、大人女性の温活！よもぎ蒸し+美筋圧専門店」

よもぎ蒸しで代謝UP！気になる冷えやむくみ、血色の悪さ改善にも◎身体の内側から本来の美しさを引き出す！温活美容×美容筋圧の組合せで相乗効果！デスクワークで酷使した眼の疲れにはよもぎ蒸し+小顔矯正！立ち仕事でむくんでパンパンの足にはよもぎ蒸し+美筋圧マッサージ！疲れや悩みに合わせてメニューをチョイス！よもぎ蒸しで体を内側から温める、温活新習慣で皆様の「美しい笑顔のお手伝い」をさせて下さい。

# 国を飛び出し40年 インドネシア国籍を 取得し起業した男

梅村 正毅氏（9回生）

小中高卒、慶応大卒 1942年生まれ

の歌を覚えて唄うことは、駐在員時代も含めてプラント周辺の住民との交流を深めることにもつながった。

梅村氏が海外移住を志した原点の1つは、明治の企業家、岩崎弥太郎の孫の沢田美喜さんが戦後に進駐した連合軍兵士と日本人女性の間にも生まれた子供を受け入れるために設立した児童養護施設エリザベスサンダースホームでのボランティア活動だ。子供達をブラジルに移住として連れていくのを手伝った。「貧困に苦しむ人はいっぱいいる。日本にとどまらずに海外へ行くことで、役に立てることもあるのでは」と考えた。

## 〈運命の糸〉

梅村氏が日本を離れ人生の大半をインドネシアで活躍されたのは実は運命の糸がそうさせたのではと思いました。梅村氏の生まれた昭和17年5月に遡りますが、当時の日本政府がインドネシアに対し経済文化協力を力を入れており、彼の祖父は派遣団船で4回に渡り関わっていましたが、米国が仕掛けた機雷に触れ船は沈没、残念なことに事半ばで亡くなられたのです。失意のご両親、ご親戚の方々には、数日前に生まれた子は祖父の生まれ変わりだと言われたらしいです。このときは単なる身内周辺のお話でしたが、その後のインドネシアでの大活躍が、まさに運命の糸が結ばれた結果と思いました。



大手商社との懇親会

梅村氏は、千代田化工建設の駐在員として東カリマンタン州ボンタンなどに赴任した後、1998年に約30年勤務した同社を退職して、プラントのメンテナンス会社を立ち上げた。三菱マテリアルなどが出資する東ジャワ州のグレスック銅製錬所や同州の化学製品製造プラント向けの仕事などを請け負った。アジア通貨危機前後の混迷期からのスタートだったが、日系企業を中心に顧客を増やした。

法令順守をモットーに梅村さんが育てた会社は業績を伸ばし、現在社員数は600人を抱える企業に成長している。

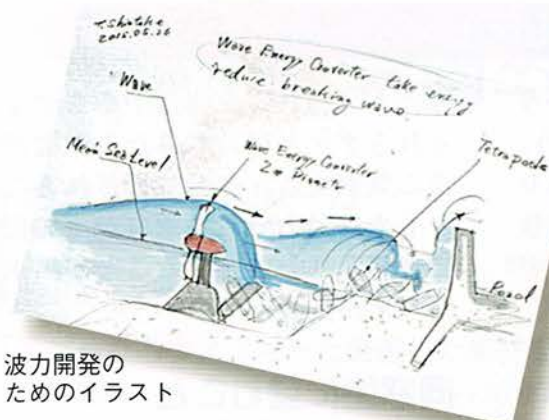
77年結成のインドネシア語の歌を唄う集まり「ラグラグ会」での活動もかけがえのない思い出だ。各地方



インドネシア  
東カリマンタン州駐在

彼の運命は不思議に戦争と密着しており、太平洋戦争敗戦を中国で。ベトナム戦争で戦死した4人のサンダーホーム孤児の知らせを受けた沢田美喜さんの涙をたまたま訪れた時に目にし、赴任中のイラクで中東戦争に巻き込まれ、それらの経験、体験が梅村氏の男の魅力であり、勇気と、優しさと、厳しさの人生観を作り上げたのだと強く感じました。

最後に、資源などの事業でインドネシア社会と密接に関わってきた梅村さんは滞在を振り返り、若い人に向けて「日本の外に出て挑戦する姿勢を大事にしてほしい」と力を込めて語った。



波力開発のためのイラスト



モルジブ諸島波力発電エリア

昭和63年、公共建物株式会社社長に就任。現在も会長兼社長として現役のバリバリ。昨年12月4日、山下氏のクラスメイト4回生高嶋浩氏にご案内いただき、京橋にある本社社長室にて、山下耕平氏に改めてご紹介いただきました。6階の社長室に通され、重厚なお仕事机のセット、壁際には歴史的にも貴重な著名人、政界の方々との記念写真がずらり、又、亡きお父上、アラビア石油山下太郎氏の胸像。氏は冒頭に、私の人生における重要なことは、好奇心と探求心、達成感、途中で投げ出さないこと。又、学園を意識され、大事なことは母校に行きたくなくなるように、関心、魅力、想い、を育てることで、それが母校への愛着を生み、寄付に繋がる。この様なことからお話は始まりました。

今回お訪ねした最大の目的は、学園中高が昨年からキャリア教育の一環として行っているキャリア講座について、81歳を迎えられる山下氏に講師をお願いすることでした。

山下氏は関連会社数社の現役代表会長、社長他、外部団体の顧問等要職に就かれておられ、年間6～7回の海外出張もこなされている。これだけでも講演をお願いすべき人物なのですが、しかし本題はこれからです。

山下氏は現在、クリーンエネルギーとしての波力発電事業開発に邁進されており、遠くモルディブで現地スタッフと一緒に自ら海に入り、実証実験作業をされているという驚異のスーパーマン。この取り組みはまさにSDGs（持続可能な開発目標）であるため、学園生徒達に旬な実話講座として紹介できたら最高だと考えました。

現在、発電エネルギー源の多くは化石燃料や原子力に頼っていますが、それらは有限な資源である上、火力発電による地球温暖化や原子力発電による環境汚染等が問題視されています。

一方、代替エネルギー源として、近年「太陽光」「風力」「バイオマス」「地熱」等のクリーンな資源を用いた「再生可能エネルギー」の導入が進んでおりますが、その中でも最も安定的で効率良いと言われている“波の力”を利用した「波力発電」が山下氏の手がけるプロジェクトであり、今、注目を集めています。

「波力発電」は間断なく24時間打ち寄せる波の力を利用するので、安定的、永続的に発電ができ、現在、各所で開発が進められ、次世代の再生可能エネルギーの一翼を担う技術として大いに期待されています。

山下氏のプロジェクトに必要な波力発電装置は、以前より内閣府所管の「沖縄科学技術大学院大学（OIST）の新竹 積教授と共に開発推進しておられ、既に日本で初めての実験機による実証実験に成功しています。

「波力発電」の開発と普及にはまだまだ課題があると予想されますが、山下氏はこの実現を天命と考え、一意専心、次世代に向けた社会貢献に寄与すべく取り組んでおられます。

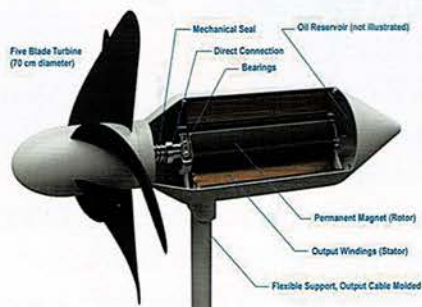
山下氏のお話では、波力発電のきっかけはダイビングだそうです。58歳から始め、81歳の現在でも続けられています。昨年末に会社にお邪魔した折に、社長室に保管されているダイビングの記録を拝見しました所、2018年9月16日現在の通算潜水記録が1785時間、記録書類は64冊に上がりました。単純に1日24時間で74日以上潜り続けていることにもなります。

山下氏は、同級生に平尾昌晃氏（故人）、佐藤允氏（元同窓会会長、故人）、今回の取材に同行頂いた高嶋浩氏等お馴染みの方々がおられます。5年前の学園創立80周年行事の1つ、アリーナ会場で平尾昌晃氏によるチャリティーコンサートにはクラスメイトの方々も応援に来られ、平尾さんの曲に合わせ、お仲間と客席でロックを踊られている姿も拝見いたしました。

こよなく湘南学園を愛するスーパー4回生、山下耕平氏に大拍手！学園卒業生の偉大な一人として、我々の励みです。いつまでもお元気で、そして現役でのご活躍をお祈りいたします。

尚、取材後に講演の具体的な予定が決まり、今年の6月15日（土）学園アリーナにて拡大キャリア講座として開催されます。

取材・編集：前川 力（高1961年卒 9回生）



波力発電機



山下耕平氏（4回生）

1938年生まれ

小・中 1953年卒

サン マテオ大学(米国) 卒

ニューヨーク大学(米国) 卒

ケンブリッジ大学院(英国) 修業

## 二十歳になって考えた 自分の将来の方向性

**樋口さん**：国語の教育者にずっとなりたいと思っている、大学入って塾のバイトを始めた、小学5～6年生徒を前に授業している、やる前は楽しい世界と思っていたが実際やってみると先生は結構辛いなど思った、黒板書いていて振り返るといるはずの生徒が1人いないとかある、でも落ち着きのなかった生徒が6年になって落ち着きを取り戻し真剣に講義を受ける姿を見るとうれしい気持ちになる。

**辰元さん**：大学生になって初めてお化粧をするようになり化粧の魅力に自然と引かれる、自分に自信を持って人に何かを与えられるようなこと、例えば化粧品メーカーの販促や広報など先ずは体験してみたい。その後はその経験を活かして会社を設立したい。

**野田さん**：明確にやりたい仕事は今は有りません、人と関わること

が好きなので一般職で宣伝関係などの仕事はやってみたいと思う。また子供の頃からクラシックバレエを習っていたので一般職経験後はクラシックバレエを教えることもしてみたい。

## 卒業して2年学園生活を 終えてためになったと 思うこと

**野田さん**：私は幼小中高と15年間学園に通っていたので正直深い仲間が多く出来たことが良かった、やはり中学からの友達、高校からの友達たちとは頻繁には集まらなかったかもしれない、幼少からの幼馴染はそれなりに気が合いそれは本当に楽しかった。今も毎週と言っていいほど何処かしらで集ま



り何時間も仲間と一緒にいても気を使わない友人、いったい月に何回会うのって感じ(笑)なんです。みんなとの話はたわいない話が多いかもしれないけどとにかく楽しくて仕方ないのです。

**辰元さん**：私も友達との繋がりは勿論ですけど、学園に入って短期留学を2回(イギリスとオーストラリア)しました、そんな経験ってなかなか高校生では体験出来ない、そのお陰で大学も来年1年間留学したいと考えています、学園にいた時の体験が更に発展すれば良いなと思っていて海外で将来働くことも興味があるので視野に入れていきたいと思っています。

**樋口さん**：学園生って「取りあえずやってみよう」みたいな、結果

はどうであれ先生たちがやらせてくれるダメとは言われない環境がある気がする。勿論却下されることもあるけどそれを乗り越えて更に提案しあい討議することが出来たことが良かった。

## 同窓生に望むこと

**野田さん**：まだ学生でこれから社会人になるにあたり、沢山の不安やわからない事ばかりだと思う皆もそうだと思う。学園に居たからこそ皆で調べたり教え合ったり助けてもらったりできる。

**辰元さん**：学園生に横の繋がりは有るけど縦の繋がりはなかなか卒業してからは作れないので定期的に皆で集まる機会があって就職の相談とかこれからどの様に動けば良いかアドバイスをもらえると良いと思う。

**樋口さん**：大学にも同じシステムがありためになることは沢山あるけど母体が大きく事務的な対応と感じてしまう、一学生でなくその人自身をみてる、その時だけでなく短くても学園在学6年それ以上の方がたくさん居る中でこれからの人生進む手伝いをしてもらった方が長く後のためになると思う。大学受験の時も学園在学中も卒業生が沢山来てくれた、僕も同じで後輩の為に何かしてあげたいと思う。その様な気持ちが学園を卒業した人皆が思っている、そうゆう人達にこれからの事をやってもらうのが良いなと思う。

## 新成人の集いで 同窓会に望むこと

当日は教室3部屋借りて更衣室に、出来れば着付けの手伝いも、鵜沼海岸駅から振袖着用者の送迎バスなど有り難いそうです…カフェテリアのオードブルはとても美味しかったと言っていました。

取材：前川 力 (高1961年卒 9回生)

取材・編集：丸林 徹 (1975年卒 23回生)



ひぐち りょう  
**樋口 諒**さん  
上智大学  
文学部3年

中高卒バスケット  
中学総務委員会、  
高校総務委員長



のだ らむ  
**野田 良夢**さん  
フェリス学院大学  
音楽学部3年  
幼小中高卒  
声楽



たつもと りん  
**辰元 凜**さん  
跡見学園女子大学  
マネジメント学部3年  
小中高卒  
ダンス部

## 卒業生諸氏のメッセージに学ぶ



湘南学園学園長  
湘南学園同窓会名誉会長 山田 明彦

湘南学園創立85周年記念事業の一環として、「湘南学園と学園生へのメッセージ」と題する記念冊子を制作しました。この冊子ではまず、同窓会の筧元則会長、後援会の田辺真理会長、PTAの近藤えり子会長、湘南食育ラボの小田拓也理事長から、学園のこれからに向けて貴重なメッセージを寄せていただきました。

続いて幅広い世代にまたがる多数の卒業生のご協力を受け、学園教育と次世代学園生へのメッセージを年順に掲載させていただきました。同窓会のご推挙に

より、学園第1期生でコンサルタントや研究者として活躍される町田芳章様、第2期生で湘南学園と鶴沼の歴史に最もお詳しく、現在も地域研究のリーダーとしてご活躍の内藤喜嗣様、日本と世界の外交の中核で数々の要職を歴任された朝海和夫様からのご寄稿をいただきました。食と健康、ヘルスフード科学の第一人者でTV出演でも著名な矢澤一良教授にはご寄稿とともに学内の食育関連会議でもご教示をいただいています。



皆様のメッセージには、現役学園生への共通の呼びかけや、大切にすべき「学園のDNA」についてのコメントがありました。学園時代は長い人生の中で貴重な数年間であり、恵まれた環境を生かして興味ある分野に夢中で取り組み、没頭する経験がとても大切だと励ましが心に届きました。温かい校風への郷愁や懐深い母校愛も印象的であり、生徒が主人公になって自主性を発揮して頑張れる学校行事の意義、ともに協力して苦楽を共にした仲間がずっと生涯の友となること、生徒の意見や要望を大事にしてサポート・助言・寄り添いに努めてくれた先生方の存在、などが記されています。勉学や部活や行事で活躍が顕著だった寄稿者が多いですが、まわりの仲間の頑張りや成長の姿も思いおこし、代表して記してくれている様子が伝わりました。

現在専攻される学問の専門分野や第一線の仕事の苦労や充実が記され、そこから学園時代を振り返り、今後力を入れるべき指導分野に言及されている内容もあります。自らのアイデンティティの苦悩に触れながら青春時代の危機を越えるための助言を述べた方もおられます。激動する社会や経済で鍵となる「人間力」やソフトスキルの内実についての具体的なコメントもあります。説得力にあふれ、頷きながら読み進めました。豊かな個性や明るく柔軟な心を育む学園教育。その子らしさを伸ばすことに徹する助言や支援。正解のない課題に自分の考えを持って行動できる主体性。自分らしさに誇りを持ちながら多様性ある社会で周りをリードできる生き方。……今後の学園教育の願いを深め直す思いになりました。

80周年記念館とカフェテリアができて、卒業生の皆様に気軽にお立ち寄りいただける環境が大いに改善されました。部活動や総合学園やグローバル分野などで数多くの同窓生の方々のお力添えをいただいております。またお子様の保護者として、そして次世代の教職員として湘南学園とのご縁を新たに結んでいただいている方が増えていることは、とても心強くありがたいことです。今後90周年そして100周年へ向けて、同窓生の皆様のご協力、ご尽力をいろいろとお願いする場面が必ずございます。ホームcomingデイの催しも検討してまいります。これからも引き続きご協力とご支援をお願い申し上げます。

## 現役将棋部・中学団体戦冬季県大会で準優勝！今後も期待できる！

将棋部は、昨年度の公式戦で数々の成果をあげました。春の高校県大会団体戦で準優勝、前部長が夏の全国大会個人戦ではベスト32に入りました。中学団体戦でも文科杯で東日本大会への連続出場をはたしました。

そして12月に実施された「第27回神奈川県小中学校将棋大会」で、出場4チームのうちAチームが王位戦で準優勝を達成しました。この大会は1チーム3名制で、今回は134チームが参加しました。王位戦・上級戦・中級戦・初級戦と棋力別のリーグ戦に分かれて1日で5局を戦い、朝から夕方までみっちり団体戦を経験できる重要な大会です。

その最上位の王位戦は各校の有段者が集まる最強リーグであり、優勝はまたも栄光学園Aチームでした。小学校全国優勝者も含むメンバーは全員が5連勝と圧倒的でした。

本校Aチームは、まず一番手の中2の矢野が、小学校時代から全国・東日本大会出場歴の続く強豪です。二番手の中3の菊田は中1入部時は初心者でしたが、ひときわ研究熱心で棋力向上の著しい有段者です。三番手の中3北澤は中3入部のスタートで、やはり研究と実戦に励んで急激に棋力を伸ばしました。格上の有段者に大事な勝利も得て貢献したのです。



将棋部の躍進

他の3チームの部員達も各自の反省とともにその活躍に大いに刺激されたことでしょう。この実績は8日の全校朝礼の表彰で披露されました。

11月から新たな部活のコーチもお迎えし、定跡や手筋のより詳しい指導を頂けるようになりました。プロ棋士によるご指導対局を頂ける機会にも恵まれています。初心者からの入部が大部分ですが、向上心を深めて棋力を大いに伸ばす諸君もいます。自主研究や挨拶マナーの徹底も大切に、「考えぬく力」や「大局観」を養い、将棋を通じて対人関係を豊かにしていってほしいと願っています。

取材：高橋 文恵（旧姓 市原 1965年卒 14回生）  
湘南学園ホームページより引用



### 同窓会行事予定

- ・ 6月15日(土)  
2019年度 同窓会総会  
〈注〉同窓生の方々には別紙にて  
総会案内と収支報告(案)を同封  
いたします。
- ・ 10月5日(土)～6日(日)  
中学園祭で同窓会展示
- ・ 11月 〈予定〉  
学年幹事・サポーター会議

### 同窓会からのお知らせ

- ・ 永嶺謙忠さん（中学8回生、東京大学名誉教授他）が原子核素粒子分野で日本学士院賞を受賞されました。湘南学園の誇りとして心よりお祝い申し上げます。
- ・ 元同窓会会長の故佐藤允さんのご遺族から10万円のご寄附をいただきました。

### 学園人事

〈敬称略〉  
理事長：内海直人  
学園長：山田明彦  
中学校長：木下貴志  
小学校校長：河本洋子  
幼稚園園長：古田優子  
法人事務局長：清水利明  
PTA会長：近藤えり子